

航空事故調査報告書

| | |
|--------------------|-----------|
| 個人所有 | JA5273 |
| 日本農林ヘリコプター株式会社所属 | JA7648 |
| 尾上商事所有 | JA9755 |
| 朝日航空株式会社所属 | JA3887 |
| インペリアル航空株式会社所属 | JA7425 |
| 日本航空株式会社所属 | JA8115 |
| 個人所有 | JA3878 |
| 静岡県航空協会所属 | JA3288 |
| 鹿児島国際航空株式会社所属 | JA9354 |
| 個人所有 | JA3539 |
| 武田商事所属 | JA4011 |
| ベンセン式 B — 8 型 | ジャイロ・プレーン |
| マックスエア式ドリフター型 | 超軽量動力機 |
| マックスエア式ドリフター X P 型 | 超軽量動力機 |
| 菱和式つばさ W 1 — 1 型 | 超軽量動力機 |

平成元年 3 月 24 日

航空事故調査委員会

本報告書は個人所有セスナ式421C型JA5273、日本農林ヘリコプター株式会社所属ヒラー式UH-12E型JA7648、尾上商事所有アエロスパシアル式AS350B型JA9755、朝日航空株式会社所属セスナ式172P型JA3887、インペリアル航空株式会社所属川崎ベル式47G3B-KH4型JA7425、日本航空株式会社所属ボーイング式B747-100A型JA8115、個人所有パイパー式PA-28RT-201T型JA3878、静岡県航空協会所属パイパー式PA-18-135型JA3288、鹿児島国際航空株式会社所属川崎ベル式206B型JA9354、個人所有富士重工式FA-200-160型JA3539、武田商事所属セスナ式T210R型JA4011、ベンセン式B-8M型ジャイロ・プレーン、マックスエア式ドリフター型超軽量動力機・マックスエア式ドリフターXP型超軽量動力機及び菱和式つばさW1-1型超軽量動力機の航空事故に関し、航空事故調査委員会が実施した調査に基づき、航空事故調査委員会設置法第20条の規定により作成したものである。

航空事故調査委員会委員長 武田 峻

航空事故調査報告書
日本航空株式会社所属
ボーイング式747-100A型JA8115
公海上空
昭和63年10月22日

平成元年1月11日

航空事故調査委員会議決

委員長 武田 峻

委員 薄木 正明

委員 西村 淳

委員 東 明

委員 竹内 和之

1 航空事故調査の経過

1.1 航空事故の概要

日本航空株式会社所属ボーイング式747-100A型JA8115は、昭和63年10月22日、同社の72便として新東京国際空港からホノルル国際空港に向けて飛行中、北緯32度西経178度付近の公海上空において、03時15分（日本標準時、以下同じ）ごろ、旅客1名が死亡した。

1.2 航空事故調査の概要

1.2.1 事故の通知及び調査組織

航空事故調査委員会は、昭和63年10月22日、運輸大臣から事故発生の通報を受け、当該事故の調査を担当する主管調査官を指名した。

1.2.2 調査の実施時期

昭和63年11月17日

事実調査

2 認定した事実及び 事実を認定した理由

J A 8 1 1 5 は、昭和 6 3 年 1 0 月 2 1 日 2 2 時 1 1 分、旅客 2 6 8 名（幼児 1 名及び便乗乗務員 3 2 名を含む。）及び乗員 1 9 名（運航乗務員 3 名及び客室乗務員 1 6 名）が搭乗して新東京国際空港を離陸し、ホノルル国際空港に向けて高度 3 9 , 0 0 0 フィートで飛行中、2 2 日 0 3 時 1 0 分ごろ、就寝中の男性旅客 1 名（6 9 歳）が、同乗の家族からの呼びかけに応答がなく、手が冷たく脈も確認できない状態となった。

このため直ちに同機内に乗り合わせた医師に助力を求めたが、0 3 時 1 5 分ごろ同医師により当該旅客が死亡していることが確認された。

乗客の遺体は、同機が 0 4 時 4 0 分（ホノルル時間 1 0 月 2 1 日 0 9 時 4 0 分）ホノルル国際空港に着陸後、検疫所の医師により再度死亡が確認された。

ハワイ州保険局発行の死亡証明書によれば、死亡の原因は冠動脈硬化症と推定されている。

3 原 因

本事故は、搭乗していた旅客の冠動脈硬化症による死亡であると推定される。